

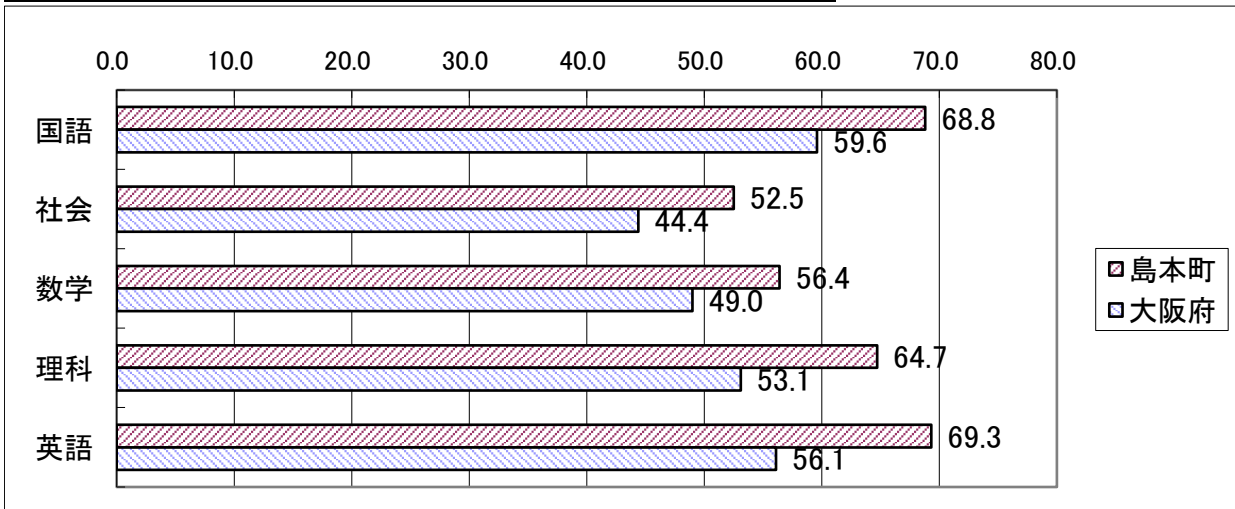
令和4年度 大阪府中学生チャレンジテスト結果概要<2年生-①>

島本町教育委員会

1. 実施日時: 令和5年1月11日(水)
2. 対象・内容: 第2学年<国語・社会・数学・理科・英語、生徒アンケート>

1. 教科別結果概要(平均点)

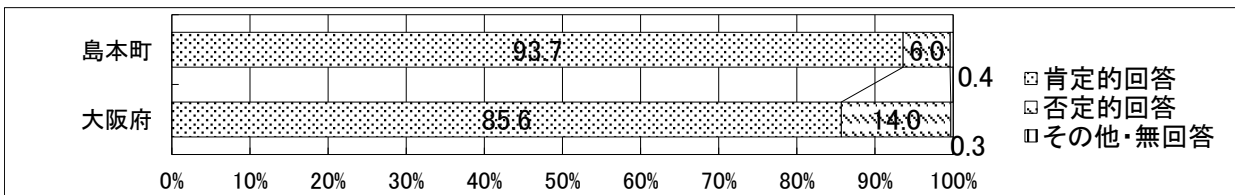
	国語	社会	数学	理科	英語
島本町	68.8	52.5	56.4	64.7	69.3
大阪府	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1



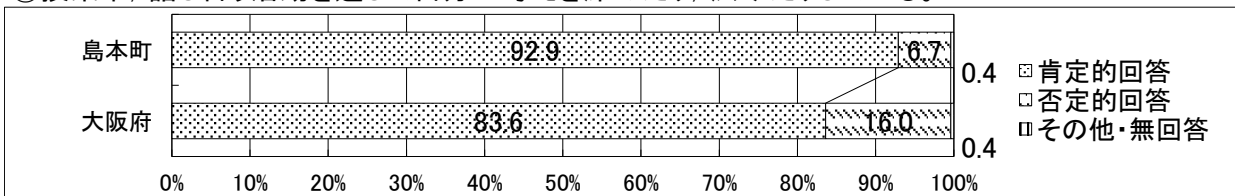
※社会・理科は選択問題で実施

2. アンケート(抜粋)

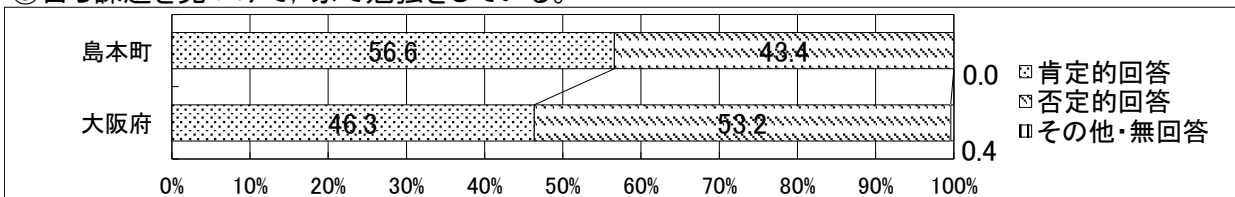
①授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



②授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



③自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



令和4年度 大阪府中学生チャレンジテスト結果概要〈2年生-②〉

3. 分析等

- ・ 教科別学習状況については、いずれも府の平均正答率を上回った。無解答率についても、どの教科も概ね府の平均を下回るなど、解答状況は良い。特に英語は、府の平均を13.2ポイントも上回っており、本町が進める英語教育推進事業の成果が出ている。来年度以降も高水準を保つことができるように、引き続き授業改善に取り組んでいく。
- ・ 生徒アンケートの結果より、自分の考えを「ノートやプリントに書く時間」「話し合う活動を通じて深めたり、広げたりしている」のいずれの肯定的回答が90%以上となっており、府平均より高い。さらには、各アンケート項目とも、肯定的回答の中でも、強い肯定を示す回答をしている生徒が多い。このことは、新学習指導要領の内容でもある「主体的・対話的で深い学び」が実現されていると考えられる。しかし、「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている」については肯定的回答が60%を切る結果となっている。1年生と同様、自ら学びたくなる仕掛けを授業内で実施する等の方策が必要である。
- ・ 同学年の国語・数学・英語について、対府比(府を「1」とした時の割合)では、前年度(1年次)より国語以外の2教科が上回った。

今後、生徒が個人の思考と他者と協働する場面の両方がある授業研究を推進し、生徒が主体的に課題を見つけ、解決しようとする力を育成していく必要がある。